令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）【１年生】　　３１４　練馬区立豊渓中学校

	課題分析	授業改善策
国語	学習への取り組み方や学力に個人差があり、基礎的な国語の知識や技能の定着に時間を要する生徒もいる。一方で、少人数の環境を生かし、授業中の発言や質問など、前向きに学習へ取り組む姿も見られる。しかし、意見交流の場面では、限られた考えの中で終わってしまうことがあり、文章から読み取った内容を基に自分の考えを広げたり、他者の考えを受けて深めたりする力に課題がある。	生徒一人一人の学習状況やつまずきを把握し、個に応じた課題設定や机間指導を行うことで、国語の基礎的な知識・技能の定着を図る。また、文章を読む際には、根拠となる部分に着目して内容を整理する活動を取り入れ、筆者の考えや文章の構成を捉える力を育成する。さらに、少人数の利点を生かし、「クラス」単位での意見の交流・比較する場を設定することで、自分の考えを広げ、言葉で表現する力の向上を目指す。
社会	・意見交換などでは積極的に仲間と行動できるが、思考を深め、多面的・多角的に考える力には課題がある。 ・基礎的・基本的な知識の理解や定着に対し、個人差が大きい。	・意見をつくる場面をすむーるステップで設定し、思考を深められるよう問い返しをし、思考を深めるきっかけづくりを行う。 ・授業の始めに確認問題や自分の言葉で振り返りを書く場面を計画的に用意し、基礎的・基本的な知識の理解度を確認するとともに定着を図る。
数学	・授業に積極的に取り組み、発言や質問が多く見られる。 ・小学校で習ったの計算に不安を感じる生徒が多い。 ・内容の定着に時間がかかる。	・積極性を失わないよう、発言や質問を丁寧に取り扱う。 ・基礎的な計算の振り返りを授業内に多く取り入れる。 ・反復練習を例年より多く行い、定着を図る。
理科	・生徒数が少なく、周囲にあまり気遣いをしなくてよいため、授業中の発言や質問が活発である。 ・真面目な生徒が多く、指示されたことにしっかり取り組んでいる。 ・学力や生活経験に差が見られ、基礎的な内容を理解していない生徒もいる。	・単級で他の学級と足並みを気にする必要がないので、生徒の発言や理解の状況に柔軟に対応して、発展的な内容に触れたり問題練習の時間を増やしたりして、学力の定着を図る。 ・実験器具は一人ずつ用意し、器具の正しく安全な操作を習得させて技能の向上を図る。 ・タブレットを活用し、分からないことや疑問点などはその場で調べさせ、自ら学ぶ姿勢を育てる。
音楽	・少人数の学級であることから、一人一人の活動が見えやすい一方、消極的な生徒が多く、歌唱や器楽、発言等の活動に自信をもって取り組むことができない生徒がいる。 ・音楽を構成する基礎的な要素の理解や表現するための技能に個人差があり、学習内容の定着が十分でない生徒がいる。 ・自分の感じたことや考えたことを言葉や音楽で表現することに苦手意識があり、主体的に学習に取り組む姿勢を育てることが課題である。	・少人数の利点を生かし、一人一人の理解度や技能に応じたきめ細かな指導を行うとともに、個別の声掛けや賞賛をすることで、「できた」「分かった」という成功体験を積み重ね、自信をもって活動できるようにする。 ・歌唱や器楽では、基礎的な音楽の要素を段階的に指導し、短時間の反復練習やペアなどの活動を取り入れることで、基礎的な知識・技能の定着を図る。 ・鑑賞や表現活動では、感じたことや考えたことをまず簡単な言葉で表現するなど、発言や表現へのハードルを下げる工夫を行い、主体的に音楽活動に参加する態度を育てる。

美術	・形を捉え、陰影や質感、色味を表現することが難しい生徒が多い。 ・著名な芸術家を知っているが、身近にあふれる美術に気付いていない生徒もいる。	・基礎的な技能を身に付けさせるために適切な材料や道具を教え、机間指導を積極的に行う。 ・より美術に対する興味関心を引き出させるよう、導入などで生徒の身近にある美術について触れ、見方、感じ方を広げさせる。
保健体育	・ペアやグループでの活動から課題の解決につなげようとする姿勢が乏しい。 ・全身持久力や筋力等、全体的な体力向上が必要である。	・互いにうまくいったときには賞賛したり、うまくいかない時には励まし合ったりしながら活動するよう話をする。ペアやグループで活動する機会を増やす。 ・授業の中で筋力トレーニングやランニング等を取り入れるとともに、単元の導入で体力向上の要素を含んだ活動を取り入れる。
技術・家庭	【技術】 ・学習に前向きに取り組む。 ・木材加工において、技能に個人差が見られる。 ・生物育成と生活との関係を考えながら学習する体験が不足している。 ・創意工夫や想像力を高める必要がある。 【家庭科】 ・衣服の手入れや制作において、技能の個人差が見られる。 ・自分で考えて選択・判断する場面では、受け身になる生徒がいる。 ・学んだことを実生活に生かす意識が十分でない。	【技術】 ・身近な製品などを観察させ、この形状が適している理由を考えさせることで、設計や加工など製作に関して興味関心を高める。 ・生物育成を通して、サスティナブルな考え方を育てる。 【家庭科】 ・実物や見本を活用して、個別に確認や支援を行う。 ・生活に身近な課題を設定し、比較・選択・発表する活動を取り入れる。 ・家庭生活と関連した課題を設定し、学習内容を実生活で活用する機会を設ける。
外国語（英語）	・授業には積極的に取り組んでおり、発言したりわからないことは質問したりできる。 ・自宅学習の習慣が身についておらず、単語の定着が難しい。 ・学力の差が大きくあり、語彙の量や音読の力に差がある。	・少人数ということを生かして、一人一人のつまずきに柔軟に対応しながら基礎力の定着を図る。また、単語練習の時間を授業内に取り入れ、積み重ねが大事であること、それによる成功体験を積ませていく。